InSEA

公益社団法人
日本美術教育連合ニュース
No.１３７
２０１３．３

〒113-0033　東京都文京区本郷 2-30-14　文京ビル 206 号
公益社団法人　日本美術教育連合
発行人　理事長　　宮　坂　元　裕
ニュース担当　　北　川　智　久
E-Mail：kitagawa@elementary-s.tsukuba.ac.jp

ハーローの動物実験の彼方に

聖心女子大学　水　島　尚　喜

学生時代に学んだ「教育心理学」講義の中で、忘れる事のできない事例があります。ハーロー（Harry Frederick Harlow, 1905-1981）のサルによる実験です。彼は、アカゲザルの赤ちゃんが健全な発育をするためには、「スキンシップ」「親の動き」「遊び」の三つの要素が必要であることを一連の実験で明らかにしました。

この有名な動物実験では、鉄製の母と布製の母が用意されますが、赤ちゃんザルが鉄製の母から不安げにミルクを飲む様子や、ビックリ・ロボットに遭遇した後に、鉄、布どちらの母親の懐に逃げ込むかといった映像が記録されています。YouTube で「Harlow Monkey Experiment」と入力すると当時の実験の様子を見る事ができますが、科学的妥当性の名のもとに、親であれば直感するであろう発育上の大切な要素を、赤ちゃんザルから剥奪している内容に驚く方も多いでしょう。確かに、この実験からは、特定の生物種の発達に必要な要因や、固有の感覚体系を形成するには臨界期が存在すること等が証明されたといえます。しかしながら実験台のサルたちは、他の仲間たちと隔離され、一切仲間同士の接触ができませんでした。ハーロー自身は、実験が原因で亡くなったサルはいない、と言っていたそうですが、マターナル・ディプライベーション（母性剥奪）を受けたサルは、様々な障碍を発現しました。

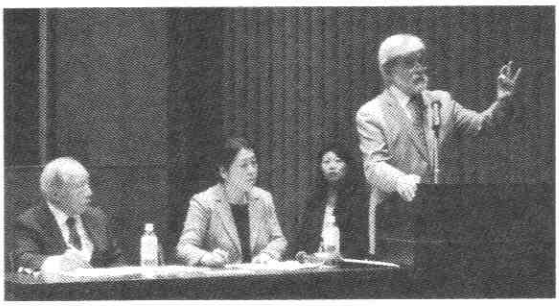
1956年から開始されたこの動物実験は、20年近くに渡って続けられましたが、方法論的な問題のみならず倫理的な問題性があったといえます。アメリカでは、この後に動物権擁護運動が起こっていきます。今日では、このような残酷な実験は、許されません。

個人的には、２つの教訓が描けます。文化／学問活動は、社会的な責任及び倫理が常に一体であること。公益社団法人である日本美術教育連合にとっての命題でもあります。次に、造形的感覚形成の場が、子どもたちの環境から、剥奪されないようにすること。人間の子どもたちが、実験動物の二の舞となることなく、固有性を発現することを保障しなければなりません。

表象行為は、人間の子どもの必然です。造形活動では、形や色等の属性をもつ材料を媒体として、活動が展開します。そこでは、子ども自らが感覚や活動を通して、外的なイメージである形や色などを用い、人間固有の心的なイメージを生み出すプロセスがあります。このような外的－内的イメージの往還を通して、子どもたちは人間になっていきます。そして、子どもたちの主体から生成されたイメージは、その子自身の存在を形づくる源泉となっていきます。一方、最近の若者たちがスマホ画面の情報を一様に指先で弾く動作は、どうも微妙な感覚性を排除していく象徴的行為のようにも思えて、とても心配しているのですが。。。

■ 予　　告 ■

公益社団法人日本美術教育連合 第３回 通常総会は、**平成25年４月21日（日）**に開催いたします。会場は、**武蔵野美術大学新宿サテライト**（新宿区西新宿１-25-１ 新宿センタービル９Ｆ ＪＲ新宿駅西口より徒歩５分）で、**総会は午後１時30分から**となります。多数のご出席をいただけますよう、よろしくお願いいたします。



アメリカ合衆国における美術教育

NAEA 会長 ロバート・セイボル博士
(F. Robert Sabol, Ph. D.)

2012年11月４日　東京国立近代美術館講堂
全米美術教育学会会長招聘講演会：要約文

日本美術教育連合から講演依頼を受け、たいへん光栄に思います。全米美術教育学会（National Art Education Association：略称NAEA）の会長として、私は、アメリカ合衆国のすべての美術教育者を代表して、全ての日本の美術教育者のみなさんへ、心のこもった挨拶を送ります。美術は、時代・地域・文化を超えて、互いを理解し、互いについて学び人々を一つに結びつける人間性に関係する世界共通の言語です。合衆国で教育の分野と芸術教育は、歴史上重要かつ急速な変化を経験しています。合衆国の美術教育者たちは国家政策に取り組み、学校や学区、州・全国・国際の各レベルで議論を行っています。変化する時代の美術教育者は、事前に対策を講じ、改革をリードするために働かなくてはなりません。

最近の５年間に、NAEA は驚くべき変容を遂げ、世界中の美術教育者のリーダーや、合衆国の他の専門的教育団体・芸術組織・政策立案者・政策決定者と連絡をとっています。NAEA は合衆国の美術教育のリーダーとして、権威ある全国的な主導権のある団体と協働しています。政策立案者・政策決定者・政治家ほかの指導者たちは、NAEA を教育における知識・経験・リーダーシップの大本と見ています。

６年前、私が副会長のときには重要なトピックや問題について対応できる公式の立場にありませんでした。４年前に NAEA の公式声明書を作成すると、立法者・政策立案者・公共メディア・報道陣などから美術教育への質問や情報提供のために招かれるようになりました。情報提供のために理事会は NAEA 調査委員会を同年３月のニューヨーク大会で新設しました。２年前に NAEA は、新しい中等教育の記述作成を依頼され、美術教育者がそれらのコースのための新しいカリキュラム作成に参画しています。

2009年、合衆国教育省は音楽と視覚芸術の教育向上に関する全国的調査結果を公表しました。この調査は中学２年生が視覚芸術の何を知り何ができるのかのスナップショットを提供するために、連邦議会によって義務づけられています。300点満点で、平均点が150点。100点満点で、創造性に関する平均点が52点。2008年の教育向上に関する全国的な視覚芸術テストの結果、中学２年生は視覚芸術における創作や表現で平均的な知識をもっていることが判明しました。

21世紀スキル策定のための協力は、企業指導層・コンピュータ会社・ソフト開発会社のグループによるものです。21世紀の世界での合衆国の競争力強化のために、全米国人が学ぶべき創造性・協働性・批評的思考力・革新性・自律性など13のスキルが特定されました。2011年の春、オバマ大統領下の芸術・人文委員会は、『芸術教育への再投資：創造的学校を通して合衆国の未来を勝ち取る』と題する報告書を発表しました。その中には、芸術教育は世界における合衆国の創造性に関する競争力を維持するために重要な役割を担うという考えを支持する多くの調査研究結果が記されました。また芸術教育の地位の荒涼とした現状を描き出し、学習に芸術教育を統合する手引きにより芸術教育の重要視を求めています。

過去28年間、合衆国の大手保険会社メットライフは合衆国の教師の年次調査を行ってきました。調査対象者はあらゆる指導レベルと分野を代表する小学校から高校までの1001人の教師で、本調査から三つの結果が報告されました。一つは、教育の全分野で広く経済上の低迷が感じられたことです。76％の教師が予算削減を、66％が一般的な学習課程の削減や一時解雇を、36％が2011年の調査で美術教育学習課程削減や除去を指摘しています。二つは、過去25年間を通して学校に対する保護者の関与の増加です。学校への保護者の関与が高いほど、児童・生徒の学業成績は肯定的に上がり、教師は仕事に対してより高い満足感を抱いています。三つは、教師が以前よりも自分の職業に対して満足していないこと、過去２年間では職業に対する満足感が大幅に下がっていることです。53％の保護者および65％の教師が、教師の賃金はその職務に見合ったものではないと報告しています。

美術教育に関する最新の報告は、2011年の春に公表され、多くの重要な結果を示しました。小学校の美術教師は、各授業で平均22人の児童を担当し、１週間に平均24の授業を行いました。中学校・高校では89％で美術教育が実施され、86％が常勤の美術教師が担当し、92％の学校で専用の美術室が設置されていました。また、１週間に平均23時間、１学級につき生徒は22人で、１週間に７種類の授業を実施し

ていました。この報告は、合衆国の学校での美術教育の衰退を示唆しています。しかし、大局的見地からは美術教育の価値が認められ、美術教育は広く実施されています。また、美術教育者と美術教育プログラムは、合衆国の児童・生徒の学業成績に貢献し、全ての児童・生徒が受講するに値するバランスの取れた包括的な教育の一部として役立ち、必要不可欠な構成要素になっています。

２年前、NAEA は国際的なリサーチ計画を開始し、会員が海外の国々を訪問して美術教育のモデルや制度・カリキュラム・指導方法・学習評価に関するリサーチを行いました。最初の国際視察はキューバで、当地の学校や大学の美術教育の調査研究を行い、私たち26人はハバナの学校や大学から予期せぬ歓迎を受けました。つい３週間前、私は20人の国際視察団長としてインドを訪れ、現地の美術教育制度・学齢前の準備教育・教員養成に関する調査研究を行いました。NAEA のリサーチ・プログラムが発展すれば、将来、日本の美術教育制度について学ぶための代表団派遣も夢ではなくなります。

合衆国では最近、芸術に対する多大な関心が脳神経科学の分野で高まっています。芸術は脳の操作システムを創造し、数学や科学に関わるために通常用いられているシステムよりもさらに洗練された複雑な脳内の操作システムを芸術はつくり出していると神経生物学者のエリク・ジェンセンは示唆し、問題解決や創造的思考に関わる時の脳の機能や創造性への大変な関心が再び起こっています。

評価はアメリカ教育の協議事項の原動力の一つです。美術教育者にとって評価が引き起こす論議や疑義への取り組みは今後も継続しそうです。なぜなら、NAEA は独特な評価という問題や美術教室での評価の活用に関する試みを行っているからです。教員へのテスト、パフォーマンス評価・昇給・職業紹介・教員採用などが、多様な評価基準に基づいて、全国的に行われています。多くの州がこれらの評価の改善に取り組み、法的・教育的な質の論議が沸騰しています。

オバマ大統領の教育政策やG・ブッシュの教育計画の発動にともない、チャーター・スクールや私立学校が急速に開設されています。1994年に合衆国の視覚芸術スタンダードが公示され、当時では最高の思考と実践でした。NAEA は芸術の新しいカリキュラム・スタンダードを作成する目的で、舞踊・音楽・演劇という専門教育の連合との合同体制をとりました。近年の新しいスタンダードの波及効果で美術教育者には、専門職の開発、過去20年間の経験にない大規模なカリキュラム改訂が求められいます。

合衆国の教育法は「子どもを落ちこぼれさせない」と公示し、連邦会議は７年毎にこの法律に対する予算の承認が必要で、再承認された予算は約４年間持ち越されます。現在、その法律は教育の目的や目標への異議という方法、未挑戦の方法で合衆国の教育を変えようとしています。法律の再認可は、全国的に美術教育にとって直接的な意味をもつ、もう一つの改革と変革の波を作り出すでしょう。2009年に、私は、3400人以上の美術教育者に対して、教育法「子どもを落ちこぼれさせない」への美術教育のプログラムへの影響について、全国調査をする指揮をとりました。その調査結果の報告書を出版してワシントン D.C. で、連邦議会や教育省のメンバーから注目されました。そして2011年、私の調査研究が、大統領の芸術・人文委員会の報告書「芸術教育への再投資」の中に特記されました。

美術教育者は美術を教える目的を見失いがちです。同様に、美術が私たちの生活にもたらす興奮やエネルギー、私たちの存在に寄与する意味を忘れがちです。美術教育のプログラムや学級での児童・生徒にとってのニーズの変化とあいまって、最高の創造的思考力や物事に革新的に対応する美術教育の力を求めています。みなさんは美術を愛するがゆえに美術教育に携わり、人々と働くことが好きであるがゆえに美術教育に関わってきたのだと私は思います。私たちは人々と共に働き、人々に美術を教えることによって人々の生活や未来をよりよく築いています。美術教育者はアーティストです。私たちの美術作品は子どもたちの未来です。学級は私たちのアトリエです。私たちの美術は人々のものです。そして私たちの子どもはそれぞれ、私たちの美術作品のようにユニークです。それぞれの子どもが、異なる知識や技術、経験をもっています。各人は、それぞれ特別なニーズや興味、希望、そして、夢をもっています。私たちの学級の子どもたちが、美術の愛好家になり、美術を学ぶことに情熱を持ち、美術を通して自らのユニークさや願望を表現することを根づかせるであろうと私は信じます。

視覚芸術で創造したり表現したりすることに人を駆り立てる精神は、歴史で明らかなように持続するでしょう。そして、子どもたちすべてにその精神を培い育てることは、私たちの責任です。そうすれば、子どもたちは、生活を通して享受してきた美術という豊かな芸術遺産を楽しむことができます。私は、よりよい世界を築くために美術を活用することやお互いの人生をよりよく、かつ、意味のあるものにするために美術を使うことをお勧めしたいと思います。ご静聴、ありがとうございました。

（英訳監修：仲瀬律久，英訳：中村和世／写真：目等邦保／要約：結城孝雄＋山口喜雄）

研究局より

2012年度研究局二大業務の報告

研究局長　山口喜雄（宇都宮教育大学）

本研究局は、日本美術教育研究発表会の企画・運営・総括、『日本美術教育研究論集』の企画・編集・発行という二大業務を行っています。前者の第46回も東京家政大学の結城孝雄運営委員の尽力により同大学板橋キャンパス16号館を会場として全役員の連携により全日程を計画通りに実施いたしました。終了後、会場近隣の洋風レストランで老若男女30余名参加の懇親会で交流を深めました。後者は、従前の理論・実践研究、実践研究報告、新設した「研究ノート」および11月4日「NAEA 会長セイボル博士招聘講演」の英和対訳全文を記載した研究論集の年度内刊行をめざしています。

1．26組29名発表・90名余参加の2012年度研究発表会

第46回日本美術教育研究発表会は、90余名の参加者を得て10月14日に開催しました。発表者は昨年より多い26組のべ29名の応募があり、下記の研究発表が実施されました。今回の発表の特徴は昨年度同様、1)南は佐賀や熊本から北は東日本大震災で被災した岩手や福島まで、2)年齢的には70歳代の理事長から20歳代の学部4年生まで、3)昨年より少ない24％７名の女性を含み、4)小・中・高・特支・大の現職教員や学部生・院生が、理論・実践研究、実践研究報告・研究ノート等の多様な研究主題で行われたことです。次回も今年度を上回る参加者と発表の質的向上を切望いたします。

第46回 日本美術教育研究発表会発表者

2012年10月14日(日)実施

	発表会場　A	発表会場　B	発表会場　C
1	『"Histoire des Arts" ー芸術史ー』研究：序論 東京家政大学 結城孝雄	児童が活用する水彩画用パレットのリ・デザイン研究 玉川大学（非） 直井　崇	ＩＣＴ活用の可能性「教育実習生編、教育情報の共有化編」 熊本市立湖東中学校 西尾隆一
2	テート美術館「アートへの扉」理論の検討(1)―西洋美術館におけるギャラリートークの相互行為分析を通して 聖徳大学　奥村高明	身体感覚を活かした鑑賞活動についての考察 東京学芸大学附属小金井小学校 立川泰史	乳児期の造形教育とあそび 東京家政大学 森田浩章
3	美術教育に適した評価方法の開発を通した学力に関する基礎研究(1) 聖徳大学／環太平洋大学／山梨大学 奥村高明／　村上尚徳　／新野貴則	シュルレアリスムと鑑賞教育～マグリットの作品についての鑑賞授業実践～ 前・岩手県立黒沢尻工業高校 山岸弘一郎	造形教育におけるＩＣＴの活用(1) 筑波大学附属小学校 北川智久
4	森戸辰男の美術教育思想 東京大学大学院 遠藤信也	行為を起点とした表現活動の可能性と今日的意義 東洋大学 北澤俊之	外部機関との連携による図画工作の実践 渋谷区立加計塚小学校 藤崎典子
5	色彩の時間変化と色彩感情 佐賀市立昭栄中学校／中村学園大学 姉川明子／姉川正紀	子どもたちの創造的思考力を育てる工作 長岡造形大学（非） 佐藤真帆	図画工作の授業づくりにおける専門性の有無による違いに関する考察 宇都宮大学大学院 多胡慎平
6	明治後期の幼稚園における描画作品の研究―「第五回内国勧業博覧会記念帖」を対象として　東京都市大学 牧野由理	炭やきものがたり連作版画集―戦後版画教育の源流 和光大学（非） 江渡英之	美術表現から美術科教育研究への転換点 宇都宮大学４年 金子優人
7	戦後半世紀余の美術教育からみた今後の課題 福島大学 天形　健	空間認識の発達と言語力に関する一考察 埼玉県立越谷西特別支援学校 小野　恵	
8	戦後の美術科教科書における掲載作品の研究(14)―「情報化」と美術教育に関する考察　宇都宮大学 山口喜雄	図画工作・美術科における観察画についての一考察 桜の聖母学院中学・高等学校 相馬　亮	知的障害児における美術科授業でのコミュニケーション行動の分析 筑波大学大学院 森　芸恵
9	近現代の美術概念と美術教育観―モダンテクニックの受容とその応用を巡って 宇都宮大学 本田悟郎	小学生の絵から読み取れること （公社）日本美術教育連合理事長 宮坂元裕	小学校における生活科と図画工作科の関係性―低学年の造形あそびと生活科の考察　府中市立新町小学校 竹谷摩維子

2．日本美術教育研究論集について

研究論集編集委員会委員長　小林貴史（東京造形大学）

本年度発行を予定しています日本美術教育研究論集第46号では、昨年の研究発表会にて発表された中から17名の方の論文掲載を予定しています。その内訳は、Ａ群（理論・実践研究論文）が９、Ｂ群（実践研究報告）が７、そして今回から新設されたＣ群（研究ノート）となっています。ご投稿された方々には、年末年始のお忙しい日程の中、ご協力いただき感謝しております。現在、年度内に皆様のお手元に届くことを目指して編集作業を進めておりますので、どうぞご期待ください。

事業局報告

― 造形・美術教育力養成講座 ―

＜第１期＞ 子どもの鑑賞の力をひらく

昨秋10月からの約２ヶ月間において、小中学校教員、美術館関係者、連合会員等を主な対象として、計８回の連続講座が CCAA（四谷アートプラザ）で開催されました。この事業は、日本美術教育連合が、内閣府の承認を得て公益社団法人となったことを記念して企画されました。第１期の連続講座は、子どもたちの鑑賞力を育成する指導の在り方を多角的に提案し、講義と演習を通して実践力を高めることを目的とした内容でした。平成25年度も、24年度同様の内容で開催される予定ですが、会場、日時、形態等は、現在検討中です。毎回、熱心な参加者と講師によって質の高い講座が催されましたが、今後、連続講座としての構造性や方向性をより高めるべく検討を進めていきたいと考えます。昨年度同様に奮っての御参加をお願い申し上げます。

（事業局）

1	**講師：奥村　高明**（聖徳大学教授、前文科省教科調査官） 「子どもの鑑賞力とは何かー学習指導要領を読み解くー」 **日時：**１０月５日　金曜日（19:00～21:00）
2	**講師：奥村　高明**（聖徳大学教授、前文科省教科調査官） 「アート・カードを使った鑑賞活動」 **日時：**１０月１３日　土曜日（18:00～20:00）
3	**講師：西村　徳行**（筑波大学附属小学校教諭） 「鑑賞ネタ集①　ー子どもたちがつくったものからー」 **日時：**１０月２１日　日曜日（13:00～16:30）
4	**講師：西村　徳行**（筑波大学附属小学校教諭） 「鑑賞ネタ集②　ー作家作品を使った活動ー」 **日時：**１０月２８日　日曜日（13:00～16:30）
5	**講師：水島　尚喜**（聖心女子大学教授） 「子どもにとって美とは何かーセンス・オブ・ワンダーをめぐってー」 **日時：**１１月９日　金曜日（19:00～21:00）
6	**講師：榎原弘二郎**（埼玉大学名誉教授） 「見る力を生きる力として」 **日時：**１１月１６日　金曜日（19:00～21:00）
7	**講師：藤崎　典子**（渋谷区立加計塚小学校教諭） 「海外での鑑賞教育の事例」 **日時：**１１月２３日（祝）金曜日（19:00～21:00）
8	**講師：橋本　光明**（長野県信濃美術館・東山魁夷館館長、信州大学名誉教授） 「学校と美術館をどのように繋ぐか」 **日時：**１２月１日　土曜日（18:30～20:30）

事務局便り

公益社団法人 日本美術教育連合 発行

日本美術教育研究論集　第４６号

２０１３年３月末日 発行します！

公益社団法人日本美術教育連合では、毎年「日本美術教育研究発表会」を、文部科学省の後援を得て開催しております。この発表会で提案・報告された美術・造形教育に関わる研究・実践の数々が１冊の研究論集となり会員の皆様および関係諸機関に届けられます。それが『日本美術教育研究論集』です。多角的・先進的な研究、日頃の実践に裏打ちされた貴重な報告などが１冊にまとめられた内容の濃い論集です。

本年度も昨年度に引き続き、年度末（２０１３年３月末日）に発行する運びとなりました。

どうぞ御期待ください！

デザインは若干変更される場合があります。

■平成２４年度(２０１２年度)会費納入、ご協力ありがとうございます

昨年１０月の「第４６回日本美術教育研究発表会」、本連合主催の造形・美術教育力養成講座、１１月に東京国立近代美術館講堂でおこなわれた全米美術教育学会会長ロバート・セイボル博士来日講演会等の開催により、それぞれ大きな成果をあげることができました。

本年度も、会員皆様のご理解とご協力を多く受けることができ、会費の納入状況が改善されました。しかしながら、まだ納入いただいていない会員もいらっしゃいます。是非、ご入金の協力をお願いします。尚、３年連続会費未納入の会員は「退会」という対応をいたします。

何卒、ご理解とご協力を引き続きお願い申し上げます。

未納の方は！

平成２４年度会費　**6,000円**　を　納入してください。
日本美術教育連合　郵便振替　００１７０－１－８６０３６
＊納入期限：平成２５年３月１３日（水）（本年度会計を閉めます）

■お問い合わせ先:事務局　筑波大学附属小学校図画工作科研究部　西村　徳行
〒112-0012 東京都文京区大塚3－29－1 筑波大学附属小学校
TEL+FAX　03－3946－1962（直通）
E-mail　tnishimura@elementary-s.tsukuba.ac.jp

■平成２５年度 通常総会 予告■

巻頭ページでもご案内いたしましたように、第３回通常総会を平成２５年４月２１日（日）に開催いたします。多数ご出席いただけますよう、宜しくお願いいたします。

■ 日　時　　平成25年4月21日(日)　13:30～

■ 場　所　　武蔵野美術大学　新宿サテライト

東京都新宿区西新宿 1-25-1 新宿センタービル９階（JR 新宿駅西口より徒歩５分）